



「その言葉、本当に使っていいですか？」

校長 橋元 忠史

みなさんへ。(教室で担任の先生と一緒に読んで下さい。)

最近、YouTube等の影響もあり、軽い気持ちで『死ね』『消えろ』という言葉を目にした、書いたりする場面を見聞きすることがあります。冗談のつもりでも、言われた人にとっては「あなたはここにはいけない」と存在そのものを否定されたように感じる、とても重い言葉です。直接言われたり、メッセージで受け取ったりして、深く傷つき、長く苦しい思いをしている人が世の中にはたくさんいます。また、自分が言われたわけではなくても見聞きするだけでイヤな気持ちになる言葉です。

言葉には力があります。人を支える力にも、傷つける力にもなります。だからこそ、附属小学校では『死ね』『消えろ』という言葉が学校からなくすことを、はっきりと目指したいと思えます。これは校長先生からの注意や指導というだけでなく、みんなで作る約束とします。

【約束したいこと】

- ① 言わない・書かない。 どんな理由があっても使いません。
- ② 止める勇気。 友だちが使いそうになったら、「それはやめよう」と声をかけます。
- ③ 言い換える。 怒りや不満を伝えなくなったら「今のはイヤだった」「やめてほしい」と具体的な言葉で伝えます。
- ④ 助けを求める。 もし傷ついたら、一人で抱え込まず、先生や信頼できる大人に相談してください。

学校は、一人ひとりが安心して過ごせる場所でなければなりません。どんな人であっても誰もが「ここにいていい」と感じられる学校を、みんなで作っていかねばなりません。強く冷たい言葉ではなく、思いやりのある温かい言葉を選ぶこと。それが、「学びと育ちのステージ」の中で共に過ごすための欠かせないルールです。

この約束は「本気」です。まずは、本年度終了の日まで『死ね』『消えろ』を附属小から一切なくすことに全力を傾けます。どんな理由があってもどんな場面でもゆるされません。

先生方へお願いします。授業中にこの言葉を見出したら即、授業を止めて下さい。

子どもたちへお願いします。遊びの途中にこの言葉を聞いたら、遊びを止めて下さい。

そして、校長室に説明に来て下さい。

お家の人へお願いします。御家庭でもこの言葉にアンテナを高くして下さい。

みなさんも同じ思いだと信じます。「学びと育ちのステージ鹿附小」から、なくすべき言葉を徹底してなくすことにご理解とご協力をお願いします。

【3月の主な行事】

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 3日(火) 学年・学級PTA(高) | 10日(火) 6年生を送る会 |
| 6年生図書返却完了日 | 11日(水) 防災について考える日 |
| 4日(水) 学年・学級PTA(中) | 12日(木) 卒業式予行 |
| 5日(木) 学年・学級PTA(低) | 18日(水) 卒業式(1~3年生は休み) |
| 1~5年図書貸出最終日 | 25日(水) 修了式・辞任式 |
| 10日(火) 1~5年図書返却完了日 | 春季休業~4月6日 |

令和7年度研究公開を開催しました

2月21日(土)には、休日ではありましたが、県内外から多くの教職員を始め、教育関係者の方々が来校されました。

今回の研究公開では、まず、プレゼンテーションタイムにおいて本校で育成を目指す子どもの姿と教育活動の工夫について紹介し、イントロダクションタイムで「これからの学校はどう在るべきか」「教師は何を考えて教育活動を行うか」といったことについて、参加者が考えるきっかけをつくるために、講師の白井先生と校長が対話を行いました。このようにすることで、参加された方が自分の問いをもったり、一日の学びのストーリーをイメージしたりすることができました。そして、公開授業・分科会を行い、最後にラーニングタイムにおいて「世界の教育はどこへ向かうか」という演題について白井先生に講演して頂きました。

研究公開を開催するにあたり、保護者の皆様には多方面でご協力を頂きました。前日には保健厚生部の方々に普段は子どもが清掃できないような箇所も細かく清掃して頂いたり、当日も安全部・研修部・広報部・ちからの会の方々に子どもたちの安全や受付の対応、写真撮影・記録、昼食対応補助をして頂きました。

参加者からは、「漠然と授業をするのではなく、教師が明確な意図をもって教育活動を展開する大切さに気付いた。」「教師一人の思いだけで教育に携わるのではなく、学校がチームとなって教育活動を展開する教育効果を実感した。」など、ご意見やご感想をたくさん頂きました。次年度も、附属小学校の使命である「教職の魅力発信基地」「授業創造の学び場」として、年2回の学校公開を実施し、子どもも教師も生き生きと学ぶ姿を県内外へ発信していきます。



【受付の打合せをする保護者】



【白井先生と校長の対話】



【4年生の国語の授業】



【1年生の図画工作科の授業】

校内音楽発表会(2/27)に向けて

2月27日(金)には、校内音楽発表会が開催されます。この校内音楽発表会は、一年間の音楽活動の成果を相互に発表・鑑賞し合ったり、合唱や吹奏楽などの多様な形態の音楽表現を鑑賞したりすることを通して、音楽や児童相互のよさを感じ取り、集団への所属感を高め、学校生活の充実を図ることをねらいとしています。

当日に向けて、スローガン「一人一人が輝き 共に奏でる 音楽発表会 ~感動を未来へ~」のもと、子どもたちは、個人や学級、学年で練習を試行錯誤し、ひびき合うよさや協力するよさを感じながら練習を繰り返してきました。

以下は、校内音楽発表会に向けた、子どもや職員の意気込みや感想です。



【朝の会でリコーダーの演奏の練習をする6年生】

- ・ はじめての音楽発表会なので、とてもわくわくしています。たくさんの人の前で歌うのがとても楽しみです。
【1年生女兒】
- ・ 去年の本番では、緊張して練習の時よりも歌声が小さかったから、今年はたくさん練習して本番を楽しめるようにたくさん自信をつけてのぞみたいです。
【3年男児】
- ・ 自分たちが歌ったり演奏したりするだけでなく、他の学年の演奏や合唱を聴くことができるのが、毎年の楽しみです。他の学年の合唱や演奏の工夫を学びたいです。
【5年生女兒】
- ・ 本格的なホール会場で音楽の発表を経験できることは、価値があり貴重なことだと思う。ホールに集う「ひと」と、ホール会場という「もの」音楽発表会という「こと」の素晴らしいハーモニーを通して、ねらいが達成できるように働きかけたい。
【音楽部職員】